

令和 6 年 6 月 3 日現在

機関番号：22604

研究種目：学術変革領域研究(B)

研究期間：2020～2022

課題番号：20H05718

研究課題名（和文）中近世における宗教運動とメディア・世界認識・社会統合：歴史研究の総合的アプローチ

研究課題名（英文）Religious Movements and Communication Medium/Worldview/Social Integration: A Synthetic Approach of Historical Research

研究代表者

大貫 俊夫 (Ohnuki, Toshio)

東京都立大学・人文科学研究科・准教授

研究者番号：30708095

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,700,000円

研究成果の概要（和文）：本プロジェクトは、中世・近世のヨーロッパ、アメリカ大陸、日本におけるキリスト教修道制、そして中世日本の寺社を研究対象とした。いかに修道士、仏僧および神職が、宗教的超越を指向しつつ、司牧を通じた社会変革への意思と行動力によって多種多様なメディアを創出・活用し、文化・思想的な革新運動を展開したかを明らかにするため、4つの計画研究班（「観想修道会班」、「托鉢修道会班」、「イエズス会班」、「日本中世寺社班」）が協働して文化圏横断型の比較研究を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本プロジェクトは、学術変革領域研究の趣旨を最大限活かすべく、メンバーの個人研究を尊重しながら、研究班内外での異分野融合的研究の促進、国際共同研究の推進、そして若手研究者の支援に取り組んだ。西洋史と日本史の協働によりいずれの点においても着実に成果を上げることができ、それにより前近代における宗教メディアが有する人類史上の意義を明らかにするとともに、前近代宗教メディア史研究の国際的な研究コアの構築を達成できた。

研究成果の概要（英文）：This project focused on Christian monasticism in medieval and early modern Europe, the Americas and Japan, and on temples and shrines in medieval Japan. In order to clarify how monks, Buddhist priests and priestly orders, oriented towards religious transcendence, created and utilised a wide variety of media and developed a movement of cultural and ideological innovation through their will and energy for social change, the four research teams (Contemplative Orders, Mendicant Orders, Society of Jesus, and Medieval Japanese Temple and Shrine) worked together to carry out cross-cultural comparative research.

研究分野：西洋中世史

キーワード：宗教運動 修道会 日本中世寺社 メディア 世界認識 社会統合

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

歴史学とその隣接諸分野の成果を見渡すと、修道士たちは修道戒律、説教などの文書のほか、文学作品、彩飾写本、聖堂装飾、あるいは巡礼などの仕組みも含め、多種多様な形態のメディアを駆使して自らの宗教理念を発信していたことが分かる。しかし、こうした努力がいかに社会を統合・規律化し、あるいはまた社会に持続性と弾力性を与えてきたかについては、より体系的な研究が求められる。先鋭的な宗教運動とそれに携わった個人・組織の文明史的意義を総合的に解明する上で、従来の断片的な研究方法ではもはや不十分であるし、それどころか各宗教運動についての定型的理解を再生産するという、歴史認識上しばしば見られるリスクをまぬがれることはできない。そこで本プロジェクトは、中世・近世のヨーロッパ、アメリカ大陸、日本におけるキリスト教修道制、そして中世日本の寺社を研究対象とし、修道士、仏僧および神職がメディアを創出・活用し、文化・思想的な革新運動を展開したことについて、文化圏横断型の比較研究を行った。

2. 研究の目的

本研究は、「修道士や仏僧および神職は、その宗教的超越への指向と司牧/教化を通じた社会変革への意思と行動力をもとに多種多様なメディアを創造し、社会に対して革新的な世界認識と仕組みをもたらし、その持続的発展に貢献したのではないか。こうした現象を異なる宗教文化の間で共時的・通時的に比較することで、より広い視野から宗教運動と当該社会との間のダイナミックな影響関係が明らかになるのではないか」という問いを4つの計画研究で共有し、各計画研究は以下の3つの目的を達成して宗教運動の文明史的な意義を体系的に明らかにするものである。

中近世において宗教運動を先導した人々は、宗教共同体の内外でコミュニケーションを促進するために、いかなるメディア(媒介物=文字テキスト、図像、仕組みなど)を創出し普及させたのかを明らかにする。

宗教者は、のメディアを通じてどのような言説を宗教共同体の内外に向けて発信し、またどのような価値観と世界認識の仕方を新たにもたらしたのかを明らかにする。

そして最後に、宗教者はとを通していかに社会の教化を推進し、社会を統合し、文明に変動をもたらしたのかを明らかにする。

3. 研究の方法

総括班として、計画研究の連携・調整、活動の企画、若手育成などに従事した。研究者の有機的な連携を促進するため、研究班を超えた研究ユニットを組織し、分野融合的研究を推進した。また、国際共同研究の推進も重要な課題であり、海外からの研究者の招聘、国際シンポジウムの開催を行い、プロジェクトが中長期的に発展するよう努めた。

4. 研究成果

以下、領域計画書(全体版)の「具体的な計画・方法」で示した4項目に対応させつつ主要な研究成果を挙げてゆく。なお、各研究成果の詳細は公式ホームページ(<https://religious-movements.com>)に掲載しているニュースレター(全3号)を参照されたい。

各研究班の研究活動

各研究班は年度ごとにそれぞれ研究会を複数回実施し、メンバーの研究成果をもとに積極的に議論・意見交換を行った。

分野横断型の研究体制

講演会シリーズ 2021「中近世宗教史研究の最前線」として実施した4回の講演会のほか、公開セミナー2021「アクアマニーレと典礼空間の形成」、合同研究会 2022、合同研究会 2023 を実施して、歴史学、美術史学、文学という分野の垣根を越える形で交流と議論を行った。

研究班を架橋する研究ユニットの形成

学術変革領域研究の趣旨を活かし、新たな研究ユニットの形成を目指して実施したのがシンポジウム 2021「東西中世における修道院・寺社の書物文化 制作・教育・世界観の変容」（2021年12月18日、19日）である。そこでは中世の宗教者が生み出したグーテンベルク以前の書物の特質を、ヨーロッパと日本を比較しながら検討した。その成果は日本語論文集として、大貫俊夫、赤江雄一、武田和久、苅米一志編著『修道制と中世書物 メディアの宗教比較史に向けて』（八坂書房、2024年）として刊行した。

ワークショップ「ラテン・キリスト教と日本仏教における「もつれた修道制史」を目指して」（2023年1月7日、8日）は、プロジェクトのメンバーのほぼ全員が参加し、研究班を架橋して今後の修道制史のあり方を議論した。

2022年と2023年の2回にわたり、国際中世学会（IMC、リーズ大学）でセッションを企画し、研究班を架橋する研究ユニットを組織して研究報告を行った。

国際共同研究推進

2022年7月には、Global Association for Historical Research of Monasticism (GARMon)が結成された。これには構想段階から本プロジェクトの領域研究者（大貫俊夫）と計画研究代表者（赤江雄一、武田和久）が深く関わっており、今後はドイツ、イタリア、ベルギー、アメリカ合衆国、アルゼンチン、オーストラリア等、世界中の研究者と連携して比較修道制研究を推進する予定である。

2023年11月25日、26日には中世修道院研究の第一人者 Steven Vanderputten（ベルギー・ヘント大学教授）と Emilia Jamrozak（イギリス・リーズ大学教授）を招聘し、国際カンファレンス *Transcending the Tangibility and Intangibility: Religion and Media in Pre-Modern East and West Eurasia* を実施した。その成果は英語論文集としての刊行を目指すとともに、下述する学術変革領域研究（A）など、今後展開される国際共同研究の基礎になることを見込んでいく。

2024年2月には英語論文集 *Pastoral Care and Monasticism in Latin Christianity and Japanese Buddhism (ca. 800-1650)* を LIT Verlag より刊行した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計2件

1. 著者名 Toshio Ohnuki, Yuichi Akae, Kazuhisa Takeda	4. 発行年 2024年
2. 出版社 LIT Verlag	5. 総ページ数 280
3. 書名 Pastoral Care and Monasticism in Latin Christianity and Japanese Buddhism (ca. 800-1650)	

1. 著者名 大貫俊夫、赤江雄一、武田和久、苅米一志	4. 発行年 2024年
2. 出版社 八坂書房	5. 総ページ数 416
3. 書名 修道制と中世書物 メディアの比較宗教史に向けて	

〔産業財産権〕

〔その他〕

ReMo研 中近世における宗教運動とメディア・世界認識・社会統合 https://religious-movements.com

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	赤江 雄一 (Akae Yuichi) (50548253)	慶應義塾大学・文学部(三田)・教授 (32612)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	武田 和久 (Takeda Kazuhisa) (30631626)	明治大学・政治経済学部・専任准教授 (32682)	
研究分担者	苅米 一志 (Karikome Hitoshi) (60334017)	就実大学・人文科学部・教授 (35307)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計4件

国際研究集会 ReMo研講演会シリーズ第4回"Constructing medieval monastic history in the 20th century and its legacy"	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 国際カンファレンス"Transcending the Tangibility and Intangibility: Religion and Media in Pre-Modern East and West Eurasia"	開催年 2023年～2023年
国際研究集会 International Medieval Congress 2022 session "Transcending and Constructing Religious Spaces: Pilgrimage in Medieval Japan and Europe"	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 International Medieval Congress 2023 session "'Entangled' Monasticism in Medieval and Early Modern Christianity: A Comparison with Medieval Japanese Buddhism"	開催年 2023年～2023年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
ドイツ	ドレスデン工科大学			
英国	リーズ大学			
ベルギー	ヘント大学			